

実践報告

札幌市立米里小学校

(1) 研究内容

研究課題：「子どもの権利に関わる学習活動に関する研究」

- 安心して生きることの大切さ、自分らしく生きることの大切さを学ぶことで、子どもが自分の権利と他の子どもの権利を意識し、大切にできる態度を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】日常的な活動 「ドアの思いやり」活動の実施

○ ねらい

本校の学校経営の重点である「思いやりの心」を日常の生活の中で全校児童に意識させ、友達を大切にできる気持ちを育てる。

○ 学習内容

児童がドアを開けて入った後、次の人が通るためにドアを開けて待っている。ドアを開けていてもらった人は、次は自分が誰かのために開けて待っている。また、開けてもらった人は、感謝の気持ちを言葉（ありがとう）で表す。



【実践②】講師による「いのちを伝える出前授業」の実施（4学年対象）

○ ねらい

自分の命はどこからきたのかという生命の不思議さを考えさせることから、他者の命の大切さにも気付かせ、それを尊重しようとする態度を育てる。

○ 学習内容

本校PTAとの共催で「命はどこから来たのか」をテーマに授業をしていただいた。赤ちゃんは母親のお腹にいる時に、「声をかけられることで生きることを選び、声をかけられなかった赤ちゃんは生きることがあきらめ、死産になった」という例から、「自分に命があるのは、多くの人々に手をかけられ、大切にされてきた」ことを実感した。そこから、他者の命を大切にしなければと考えることへ繋がった。命の不思議さから「いじめ」や他者の「生きる権利」について考えを深める授業となった。



【実践③】人権に関する本の読み聞かせ会と「いじめ根絶宣言」の実施（全学年）

○ ねらい

子ども一人一人にいじめをなくすために自分ができる行動を考えさせる。

○ 学習内容

保護者に人権に関する本の読み聞かせ活動をしていただいた。その後、子どもたち

がいじめをなくすためにできる活動として、いじめは認めないという趣旨のカードを書き、「いじめ根絶宣言」と題して各学級で掲示した。

【実践④】子どもの権利を理解する授業の実施

○ ねらい

4年生の道徳（相互理解）の学習の中で、自分の権利に関わる問題を自らの手で解決することの大切さを理解できるようにする。

○ 学習内容

世界のごみ処理の仕方を切り口に他国と日本の子どもたちとの生活の違いに着目し、子どもの権利に目を向けていった。札幌市では、子どもたちが伸び伸びと成長できるように、「安心して生きる権利」「自分らしく生きる権利」「豊かに育つ権利」「参加する権利」の四つの権利を大切にしていることを理解した。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ドアの思いやり活動を昨年に引き続き行うことで、児童の中に伝統が生まれてきている。新しく入ってきた1年生も、上級生の様子を見ることで、自然に活動を行う姿が見られる。まずは思いやりを可視化することから始めている。また、いじめ根絶宣言や命を伝える出前授業を通して、命はかけがえないものであり、今存在している自分にはたくさんの愛情が注がれてきたことを理解した。
- 4年生の道徳の授業を通して、人権の大切さや子どもにも人権がありしっかりと守られていることを学ぶことができた。

② 課題

- 子どもたちに「子どもの権利」を考えさせるきっかけ作りが難しい。子どもの権利に関する公開授業では、フィリピンと日本の子どもを比較して考えさせたが、自分事として捉えることに難しさを感じた。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 今回の授業を通して、自分たちが普段何気なく行っていることが、権利によって認められていることだと気付くことができた。札幌市では、学校に行くことや勉強すること友達と遊ぶことなどを子どもの権利として認めている。大変大切な学びであると考えます。